

R3年度 文部科学省補正予算事業

「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる人材養成事業」

この度、令和3年度 文部科学省補正予算事業「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる人材養成事業」において、大阪府立大学看護学類の申請が採択されました。

本学の看護教育に教育DXを導入し、学生が臨場感のある空間で、能動的に患者と関わり、その状況に没入することで、看護に必要な実践能力（共感力・情報収集能力・アセスメント能力・コミュニケーション能力・状況判断能力）を養うことを本事業の目的としております。

令和4年度の事業内容

1. 1年生を対象に療養環境の理解を深めるためのVR教材を使用した教授方法を構築する。
2. 2年生を対象にVR教材を用いて、能動的に患者理解を深めることができる演習方法を構築する。
3. 3年生を対象に術後合併症の異常を早期に発見するための能力を育成するための演習方法を構築する。
4. 3・4年生を対象に、臨地実習前に術後患者の異常を早期発見するための知識と観察技術を自己学習するために、VR教材を用いた事前課題メニューを作成する。
5. 4年生を対象に、多重課題遂行能力を育成するための実習方法を構築する。
6. 2・3年生を対象に精神疾患のある対象とその看護の実際を学ぶために、VR動画を用いた教授方法を構築する。

今後は、本学で実施した教育DXの評価を行い、新たな教材作成や教授方法を構築し、幅広く活用してもらえようホームページ上で教育内容を紹介して行く予定です。

ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（令和3年度補正）申請グループ：

山口舞子、井上奈々、奥野裕子、益加代子、林田裕美、富川順子、杉本吉恵、田中京子